

## NO. 建 C01 パープルリボンのイベント企画

村上研究室（建築・住居分野） A19AB045 河内唯

### 1. 背景と目的

内閣府男女共同参画局の調べ（※1）では女性の約4人に1人は配偶者からの暴力を受けたことがあり、約10人に1人は何度も被害を受けたことがあることがわかっている。より多くの人に女性に対する暴力の根絶を訴えるアウェアネスリボンである「パープルリボン」を発信し本企画により、女性に対する暴力撤廃の啓発活動を行うことを目的とする。具体的には、以下の通りである。

- I 「女性に対する暴力」への理解を深める
- II 「パープルリボン活動」の周知
- III 「デートDV」の予防

### 2. 企画内容/方法

#### 2-1. 本企画の特徴

目的 I II III 達成のため全3回のイベントを行い（図表1）、A:パネル展示、B:アンケート調査（図表2）、C:ワークショップ（図表3）、D:リボン配布を行う（図表3）。

目的 I III 達成のためイベント企画とは別に E:デートDV 予防ツールカードを試行した。

広報としては、オンライン（インスタグラム）、シティリビングに告知掲載、フェアトレードショップ meets、キッチンアバディーンに告知チラシを設置しイベントの参加者を募集し「二ツ坂カーニバル2022」「もぐばくマーケット」「キッチンアバディーン」の全3回の企画を実施した。

#### 2-2. ターゲット

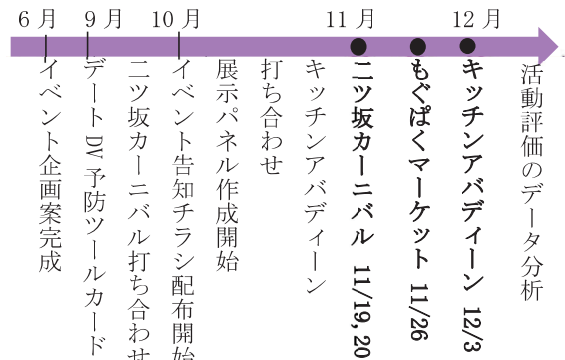
ターゲットは以下の通りである。

- ・SNS（インスタグラム）を利用している人。
- ・「二ツ坂カーニバル2022」（11/19、20開催）では子供連れの母親や女学生。
- ・「もぐばくマーケット」（11/26開催）では小さな子供を持つ母親。
- ・「キッチンアバディーン」（12/3開催）では幅広い年代の女性。

### 3. 企画の実施

#### 3-1. A: パネル展示

パープルリボン、「女性に対する暴力をなくす運動」期間の説明用パネル（図表4）。パープルリボン、フェアトレード、デートDVの関係説明パネル（図表5）。フェアトレードと女性支援の説明パネル（図表6）。デートDV説明パネル（図表7）。暴力の被害に遭った時の相談先提示パネル（図表8）。



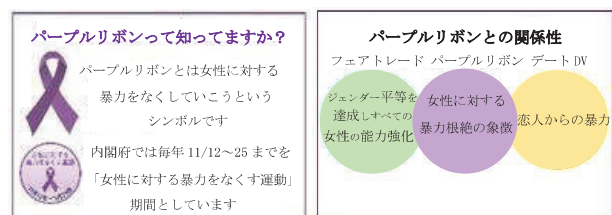
(図表1: スケジュール)



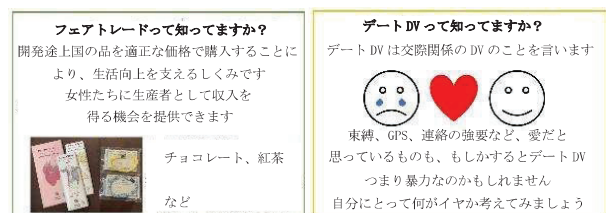
(図表2: パネル展示、アンケートの様子 11/19)



(図表3: ワークショップの様子 12/3)



(図表4: パープルリボン説明パネル) (図表5: 関係説明パネル)



(図表6: フェアトレード説明パネル) (図表7: デートDV説明パネル)

### 3-2.B: アンケート調査

イベントの効果測定のため来場者にアンケート調査を行った。

### 3-3.C: ワークショップ

フェアトレード商品（麻ひも）を使用し、フェアトレードが女性の支援に繋がっていることを知ってもらうためミサンガ作りのワークショップを開催した（図表 3）。

### 3-4.D: リボン配布

フェアトレード商品（オーガニックコットン）を使用し、ブルーベリーで紫に染色しヘアゴムに加工、配布し来場者数を測った。

### 3-5.E: デートDV 予防ツールカード

ツールカード、ロゴのデザインを作成しツールカード使用前後で暴力に対する意識変化を調査した（図表 9）。

## 4. 企画の評価とまとめ

### 4-1. アンケート結果

来場者にイベントの効果測定のためアンケート調査を行った。・パープルリボンを以前から知っていたか。・展示からパープルリボンを理解できたか。・展示からフェアトレードを理解できたか。・暴力の被害に遭った時の相談先を知っていたか。・展示から暴力の被害に遭った時の相談先がわかったか。以上 5 点と年齢、性別を調査し 988 人に解答を頂いた。デートDV 予防ツールカードの調査は使用前後に行うアンケート内容が使用前から暴力とわかるものが多く意識変化はほとんどなかった。

### 4-2. まとめ

来場者は 30 代、40 代が約半分を占め、子育て世代が多く来場し想定していたターゲットに一致した。暴力の被害に遭った時の相談先を知っていた人は 2 割以下であり、イベントを通して 9 割の人が相談先を認識した（図表 10）。パープルリボンを以前から知っていた人は 1 割以下であり（図表 11）パープルリボンの認知度が低いことがわかった。パネル展示を見てパープルリボン、フェアトレードを理解できたと 6 割の人が回答した。約 3 割の人がまあまあ理解できたと回答した（図表 12）。女性に対する暴力撤廃、パープルリボン活動について理解を深め、被害に遭った時の相談先の周知を目指した。

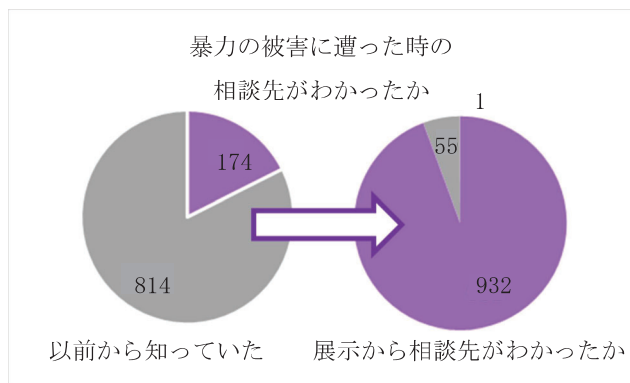
## 謝辞

本研究を行うにあたり、御協力いただきました D0 LIVING ISSEIDO の皆様、一般社団法人はっぴーひろばの皆様、株式会社ワンズOWN キッチンアバディーン プライムツリー赤池店の皆様、フェアトレードショップ meets の皆様、株式会社前田源商店の皆様に対しまして、心より感謝申し上げます。

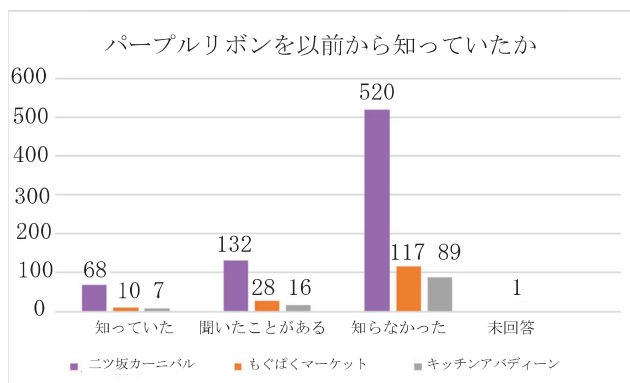


（図表 8：暴力の被害に遭った時の相談先パネル 左）

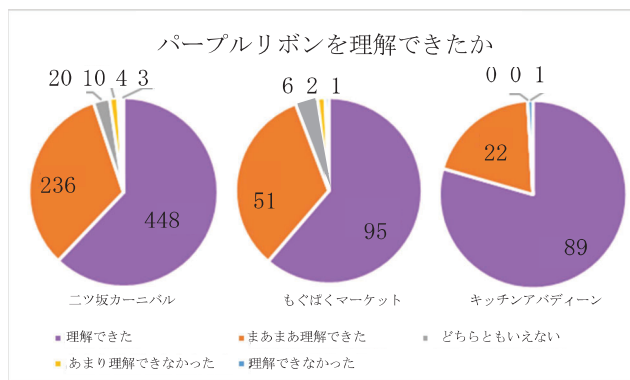
（図表 9：予防ツールカード、ロゴデザイン 右）



（図表 10：暴力被害に遭った時の相談先認知度変化）



（図表 11：パープルリボンを以前から知っていたか）



（図表 12：パネル理解度）

## 参考資料

※1 女性に対する暴力の現状と課題

[https://www.gender.go.jp/policy/no\\_violence/pdf/kadaai.pdf](https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/pdf/kadaai.pdf)